ここが聞きたい！ 一般質問Q&A

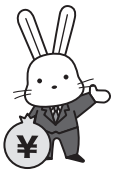
一般質問とは？
議員が、市民の皆さんの生活にかかわる身近な市政の課題に対して質問を行います。

■行財政

たばこ税の確保や増収
阿部（あべ） 亨（とおる）

Q 健康志向や喫煙規制の強化などの中で、税収面においてたばこ税の確保や増収にどのように取り組むのか。

A たばこの販売数量は年々減少しているが、国と地方を合わせたたばこ税の税収は2兆円台で推移している。
市たばこ税は貴重な財源だが、市独自に増収に取り組むことは、健康増進を推進している立場から、極めて難しい状況である。



福島市・飯野町まちづくり基本計画
黒沢（くろさわ） 仁（じん）

Q 合併推進債のこれまでの具体的な活用と今後の方針は。

A 合併推進債は、市道整備事業、電算システムの統合、新斎場整備事業など福島市・飯野町まちづくり基本計画に基づき実施する事業に活用してきた。
令和2年度は、新斎場整備事業に加え、新規事業として飯野支所庁舎整備や飯野堰堤公園の遊歩道改修事業などへの活用を予定している。
今後も、国の基準に合致する事業などに対しては、合併推進債の活用を念頭におきながら飯野地域の振興を推進するとともに、本市全体のまちづくりを進めていく。

■くらし・安全

窓口でのキャッシュレス決済
根本（ねもと） 雅昭（まさあき）

Q QRコードなどによるキャッシュレス決済を導入する自治体が増えているが、導入することについての見解とそのスケジュールは。

A 市民の利便性向上と職員の負担軽減のため、キャッシュレス決済の導入は有効であると考える。
今後、決済方法も含め、導入に伴う費用や準備期間などを踏まえながら導入に向けて検討する。

消防団員の活動内容と処遇
佐原（さはら） 真紀（まき）

Q 機能別消防団員と現状の消防団員の活動内容や処遇などの違いは。

A 機能別消防団員は、主に日中の活動に限定して基本団員の活動を補完する役割を担い、支援団員、事業所団員、学生団員に分かれる。
支援団員は、OB団員とし、住民の防火指導、火災防ぎょ活動、大規模災害活動、捜索活動を想定している。
事業所団員は、勤務先の近隣で発生した火災の初期消火と後方支援を想定している。
学生団員は、火災予防や入団促進のPR活動、大規模災害時の後方支援を想定している。
また、年額報酬は、1万2千円で、公務災害補償の対象となり、費用弁償は、基本団員と同様の1日2千円を支給する。
なお、退職報償金は、すべての活動に参加する基本団員の士気に配慮し、支給対象外とした。

避難所の設備・環境の整備
村山（むらやま） 国子（くにこ）

Q 避難所を長期に開設する際は、福島市地域防災計画に沿った設備の整備、環境の整備を行うべきでは。

A すべての避難所で長期開設の対策を講じることは困難であり、例えば避難者が多い場合は、食材の保管をどうするかなど、現実を踏まえた検討が必要である。
地域防災計画の見直しも含め、現実的で実効性のある計画の在り方を検討する。

■産業・経済

オリンピックを契機とした五葉松の活用
大平（おおひら） 洋人（ひろと）

Q オリンピックを契機に盆栽博覧会、講習会を新たに展開すべきでは。

A 盆栽は近年、世界的にも人気になっており、伝統文化や観光資源の発信などの観点から、生産者や愛好家などによる展示会や技術講習会など、盆栽を身近に感じられる取り組みがされている。
市内でも、観光推進団体などによ

り、コケ玉つくり、自生地訪問ツアー、盆栽の技術指導などの体験活動を取り入れた合宿旅行など、盆栽に興味を持つ若年層をターゲットとする企画が実施されている。

このことから、盆栽ブームやオリンピックを契機とした、普及活動や花観光の取り組みが重要であると考える。

■福祉・健康

新型コロナウイルス感染症対策本部の広報・伝達活動

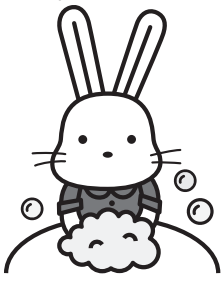
羽田（はねだ）　房男（ふさお）

Q 新型コロナウイルス感染症対策本部からの市民、関係機関・団体などへの情報提供・周知方法・予防対策などは、ホームページ以外にどのような手段で広報・伝達を徹底しているのか。

A 市民への情報提供は、大変重要なものであり、報道機関に会議を公開し、資料を提供することで市民への周知に努めている。

また新型コロナウイルス感染症のリーフレットを高齢者施設や保育施設などの会議において配布し、予防対策などについて説明している。

さらに、市長メッセージを４千２百以上の関係機関・団体などに送付し、感染拡大防止と安全安心な市民生活の協力についてお願いした。



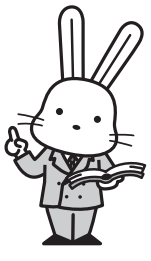
■教育・文化

教員の働き方

佐々木（ささき）　優（ゆう）

Q 教員に対し、１年単位の変形労働時間制は導入すべきではないのでは。

A １年単位の変形労働時間制の導入にあたっては、業務の削減が前提であると考えており、現段階では、制度導入の考えはない。



十六沼公園サッカー場の利活用

鈴木（すずき）　正実（まさみ）

Q 天然芝コート整備を活用した交流人口拡大のための今後の具体的な取り組みは。

A 十六沼公園サッカー場は、競技力向上のための練習拠点や各種大会の開催に加え、全国規模の大会誘致やスポーツ合宿を推進できるようハード面での環境整備を図ってきた。

令和２年度には、官民協働でスポーツコミッションを設立し、大会や合宿の誘致などの取り組みを推進してスポーツを通じた地域活性化に取り組む。

大会や合宿の誘致には、充実した競技環境のアピールとともに、温泉・果物をはじめ、食や健康などの分野との連携を図りながら、福島市ならではの取り組みを体系的に取りまとめ、交流人口の拡大に努める。

ストリートピアノ設置による音楽交流

小野（おの）　京子（きょうこ）

Q 子どもたちに古関メロディーを継承するため、古関裕而作曲の校歌を弾くピアノとして、福島駅などにストリートピアノを設置しては。

A ストリートピアノを福島駅などに設置することは、古関裕而のまち・福島市のＰＲのためにも効果的だが、施設管理面、防犯や騒音の運営上の問題など多くの課題がある。

今後、市民の機運の盛り上がりにより、市民が主体となり組織化や事業計画の提示があれば、関係各方面との調整を図り、環境整備を考える。

新型コロナウイルスによる市民生活への影響

山田（やまだ）　裕（ゆたか）

Q ３月４日からの休校が小中学校の児童・生徒に与えている影響は。

A 突然の措置に対する児童・生徒の心身への影響、学習が学校で行えないこと、重要な行事が縮減されること、自主的な活動が制限されることなどが挙げられる。

臨時休業中は、家庭との連携を図り、電話による声かけや家庭訪問などにより健康状態の確認や心のケアに努める。

また、学習面では、必要に応じて新学期はじめに補充授業を行うなどの具体的な対応を学校に指導する。

卒業式は、出席者を厳選し、時間短縮を図り実施する方向である。

そのほか対応が必要な事項も含め、児童生徒の健康や安全を第一に考え対応していく。